



企業における唯一の評価

令和7年8月4日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

それは結果である。それが唯一の現実であり正しい評価なのである。

これが企業経営における正しい指針であり判断である。

多様な企業理論はこれに次ぐものである。

これらは企業経営が結果という唯一の現実において自己を有しその判断を得るものであることを意味するものであり、それらが唯一企業の経営における正しい判断である。

これらは企業の経営者がそれら最も厳しい判断を自己に有するものであり、それら現実が企業の真実なのである。

これらはまた結果を与えることができることが能力であり、社員の評価であることを意味するものである。

これらは一切の美辞麗句は、企業において顧みられないものであり、企業が競争原理という市場ルールにおいて自己を有することは、それら現実において自己を求める以外できないのである。

これら判断は唯一正しい企業の経営を与えるものである。それらが唯一の現実であるためである。

これらビジネスの潮流は、グローバリズムという現実とともに、企業にその未来を求めるものである。

これらシビアの現実が唯一ビジネスの真実であり、企業経営における正しい判断なのである。

これらにおいて企業経営の優れたものとするのが企業の必要性であり、経営者に課せられた現実なのである。